

適用と使用方法

(平成30年4月1日現在)

作物名	使用目的	使用時期	使用量(m ² 当り)		本剤の使用回数	使用方法	総使用回数*
			薬量(ml)	希釈水量(ml)			
西洋芝 (ベントグラス)	スズメノカタビラの出穂抑制	春夏期 芝生育期 (スズメノカタビラ出穂前～出穂初期)	0.3～0.6	100～200	6回以内	エテホン21.5%液剤を1m ² あたり1.0ml加用のうえ雑草茎葉散布する	6回以内
西洋芝 (ケンタッキーブルーグラス)		芝生育期 (スズメノカタビラ出穂前～出穂初期)	0.6～1.2			雑草茎葉散布	
		春夏期 芝生育期 (スズメノカタビラ出穂前～出穂初期)					

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	本剤の使用回数	使用時期	使用方法	総使用回数*
西洋芝 (ベントグラス)	かさ枯病	333～667倍 (薬量として0.3～0.6ml/m ²)	200ml/m ²	6回以内	発病前～発病初期	散布	6回以内

※ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数

有効成分と性状

農薬の種類	ベンジルアミノプリン液剤
有効成分および含有量	6-(N-ベンジルアミノ)プリン 2.0%
その他の成分の種類および含有量	有機溶剤、界面活性剤等 98.0%
性状	淡黄色澄明水溶性液体

安全性(製剤)

普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)		
経口	マウス、ラット(♂、♀)	LD ₅₀ > 5,000mg/kg
経皮	ラット(♂、♀)	LD ₅₀ > 2,000mg/kg

普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)	
コイ	LC ₅₀ 335mg/l (96h)
オオミジンコ	EC ₅₀ 864mg/l (48h)
藻類成長阻害試験	ErC ₅₀ 760mg/l (72h)

効果・薬害等の注意

- 調製した薬液は日陰におき、調製当日に使い切ってください。(効果)
- 他農薬、資材との混用はさけてください。(ただしエテホン液剤を加用する場合は除く)
- 西洋芝(ベントグラス、ケンタッキーブルーグラス)内のスズメノカタビラ出穂抑制およびベントグラスのかさ枯病防除に使用してください。効果安定のため以下の点に注意してください。
 - ①時期を失しないように散布してください。
 - ②連続して使用する場合は2～3週間程度の間隔をあけて散布してください。
- ターフ形成前の芝には使用しないでください。(薬害)
- 25℃以上の高温時や強い踏圧を受けるなど、芝生の生育が停滞するもしくは芝生が適度なストレスを受けた条件では使用をさけてください。(薬害)
- 散布後に芝が黄変することがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 薬液が雑草茎葉全体に均一にかかるように散布してください。

- 散布後3時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候を見極めてから散布してください。
- 使用に当たっては適用作物、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼してください。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

★使用前にラベルをよく読む。★ラベルの記載以外には使用しない。★小児の手の届くところに置かない。
●使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。空ボトルは圃場などに放置せず適切に処理すること。



頑固なスズメノカタビラ対策と「かさ枯病」予防に



製造販売元 **株式会社 理研グリーン**
〒110-8520 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8F
TEL.03(6802)8571 FAX.03(6802)8577 <http://www.rikengreen.co.jp>

株理研グリーン・パートナーショップ

札幌駐在 TEL.011(595)7401 FAX.011(595)7402 大阪支店 TEL.06(6871)1691 FAX.06(6871)1811
仙台支店 TEL.022(222)9599 FAX.022(267)6505 福岡営業所(大阪支店にて代行受付)
東京支店 TEL.03(6802)8943 FAX.03(6802)8953 グリーン研究所 TEL.0538(58)1282 FAX.0538(58)1714
静岡支店 TEL.054(283)0691 FAX.054(291)4261 福田工場 TEL.0538(58)5108 FAX.0538(58)5104
名古屋支店 TEL.052(218)3060 FAX.052(218)3061

株理研グリーン **株式会社 理研グリーン**

(包装規格：1ℓ×3本入)

®：株理研グリーン登録商標

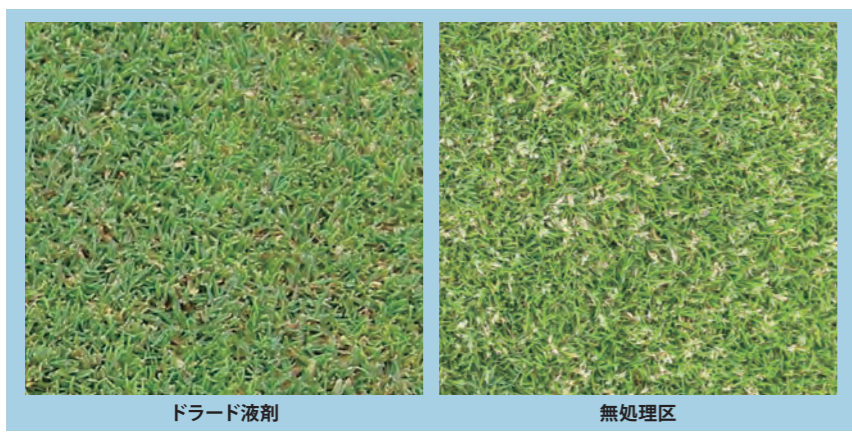
芝生用 植物成長調整剤・殺菌剤 ドロード® 液剤 5つの特長

ベントグラスの「かさ枯病」の登録を有する数少ない農薬です。

- スズメノカタビラに対して高い出穂抑制効果**
● 出穂を抑制!
● 目立たない!
● 美しさキープ!
葉は芝草として利用!
イネ科のメソッド
- 連続処理でスズメノカタビラの出穂を長期的に抑制**
- ベントグラスに高い安全性**
- 本剤とプロキシ液剤(エテホン21.5%液剤)との混用処理で相乗効果が期待**
- 「かさ枯病」の登録を有する数少ない農薬**

有効成分「ベンジルアミノプリン」の作用性・特徴
植物ホルモンの1つであるサイトカイニンは細胞分裂促進、細胞の拡大、花芽の形成促進、老化防止など多くの作用が確認されています。弊社はこの合成サイトカイニン剤(ベンジルアミノプリン)のスズメノカタビラ出穂抑制効果を初めて発見しました。(特許第5584133号)また、ベントグラスの「かさ枯病」に対し防除効果を有します。

スズメノカタビラに対する出穂抑制効果



薬剤処理日: 2010年3月17日、4月11日、5月9日
撮影日: 2010年6月10日
試験場所: (株)理研グリーン グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)

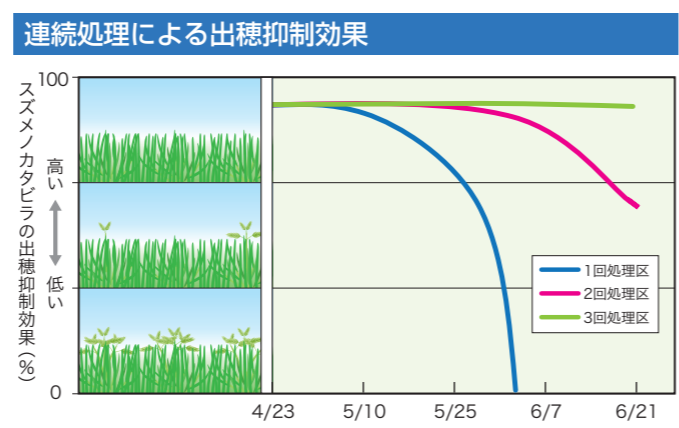
試験地	処理日	供試薬量	調査日	出穂抑制効果(%)
千葉県	H22.3.23	0.9ml/m ²	H22.5.31	100
	H22.4.13			
	H22.5.10			
静岡県	H22.3.29	0.9ml/m ²	H22.6.21	96
	H22.4.21			
	H22.5.18			
山口県	H23.3.14	0.9ml/m ²	H23.5.13	92
	H23.4.4			
	H23.4.25			
千葉県	H23.3.11	0.9ml/m ²	H23.5.24	92
	H23.4.8			
	H23.5.6			
静岡県	H23.3.17	0.9ml/m ²	H23.6.3	91
	H23.4.11			
	H23.5.9			

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験より

ベントグラスに対する影響

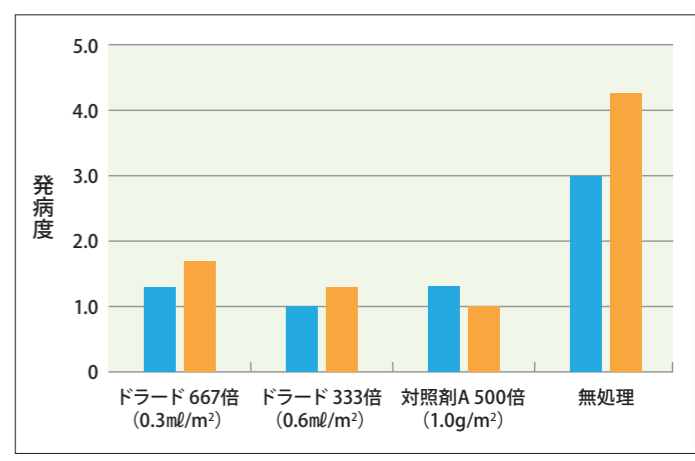
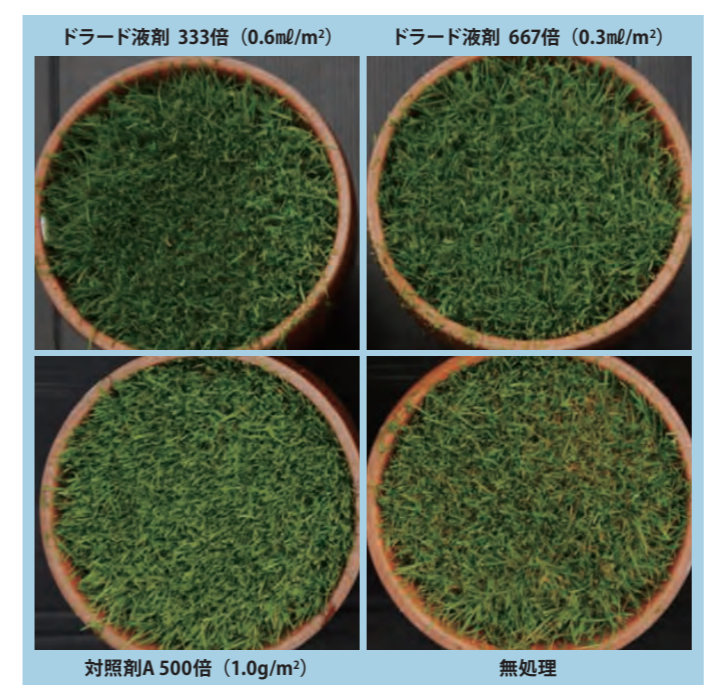
処理回数	薬剤処理日 (H22実施)	調査日	薬量 (散布水量)		
			0.6 ml/m ² (200 ml/m ²)	1.2 ml/m ² (200 ml/m ²)	2.4 ml/m ² (800 ml/m ²)
1回	3/19	4/1	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)
2回	3/19 4/21	5/4	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)
3回	3/19 4/21 5/18	5/31	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)

表示方法: — (影響なし)、± (軽微) ~++++ (強)、× (枯死)
試験場所: (株)理研グリーン グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)



薬剤処理日: 2010年3月17日 (1回目)、4月11日 (2回目)、5月9日 (3回目)
散布薬剤: ドロード液剤 0.9ml/m²
試験場所: (株)理研グリーン グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)
調査方法: 各処理区の出穂本数(本)を測定し、無処理区に対する出穂抑制率(%)を算出

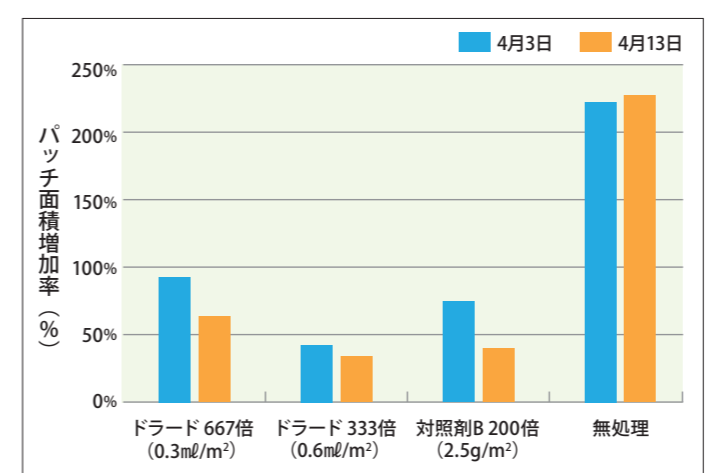
ポット試験



試験場所: (株)理研グリーン グリーン研究所 ガラス温室内
試験規模: 直径15cm素焼鉢、3反復
散布水量: ドロード液剤は200ml/m²、対照剤Aは500ml/m²
病原菌接種日: 散布翌日に接種
調査方法: 発病度 (0: 発病なし~5: 全体が赤褐変)

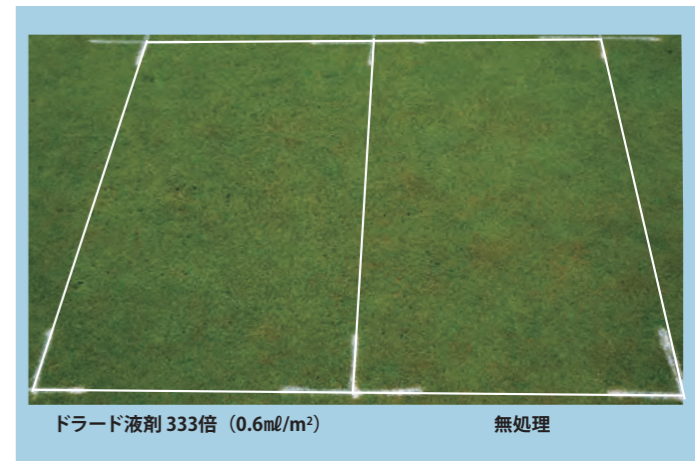
ドロード液剤は対照剤Aと同等の防除効果を示し、無処理区と比較して防除効果が認められた。薬害は無かった。

圃場試験



H27年度 日本植物防疫協会委託試験
試験機関: (一財)関西グリーン研究所
試験場所: 大阪府内ゴルフ場練習グリーン (ベントグラス)
試験規模: 1m²/区、3反復
散布水量: ドロード液剤は200ml/m²、対照剤Bは500ml/m²
病害発生状況: 中発生
散布日: 3月20日、4月3日
調査日: 4月3日 (第2回処理前)、4月13日 (最終調査)
調査方法: 処理時からのパッチ増加率(%)を算出

ドロード液剤の333倍処理は、対照剤Bと比較して同等の防除効果を示し、無処理区に対して高い防除効果が認められた。667倍処理は、対照剤Bと比較してやや防除効果が劣ったが、無処理区に対して防除効果が認められた。いずれの処理において薬害は無かった。



試験場所: (株)理研グリーン グリーン研究所内 ベントグラス圃場
試験規模: 1m²/区、3反復
散布水量: 200ml/m²
散布日: 2016年2月23日
病原菌接種日: 2016年2月24日
調査日: 2016年3月7日 (接種12日後)
調査方法: 発病面積の調査により増加率(%)を算出

ドロード液剤は無処理区と比較して防除効果が認められた。薬害は無かった。

ドラード®液剤とプロキシ®液剤を混用処理することで

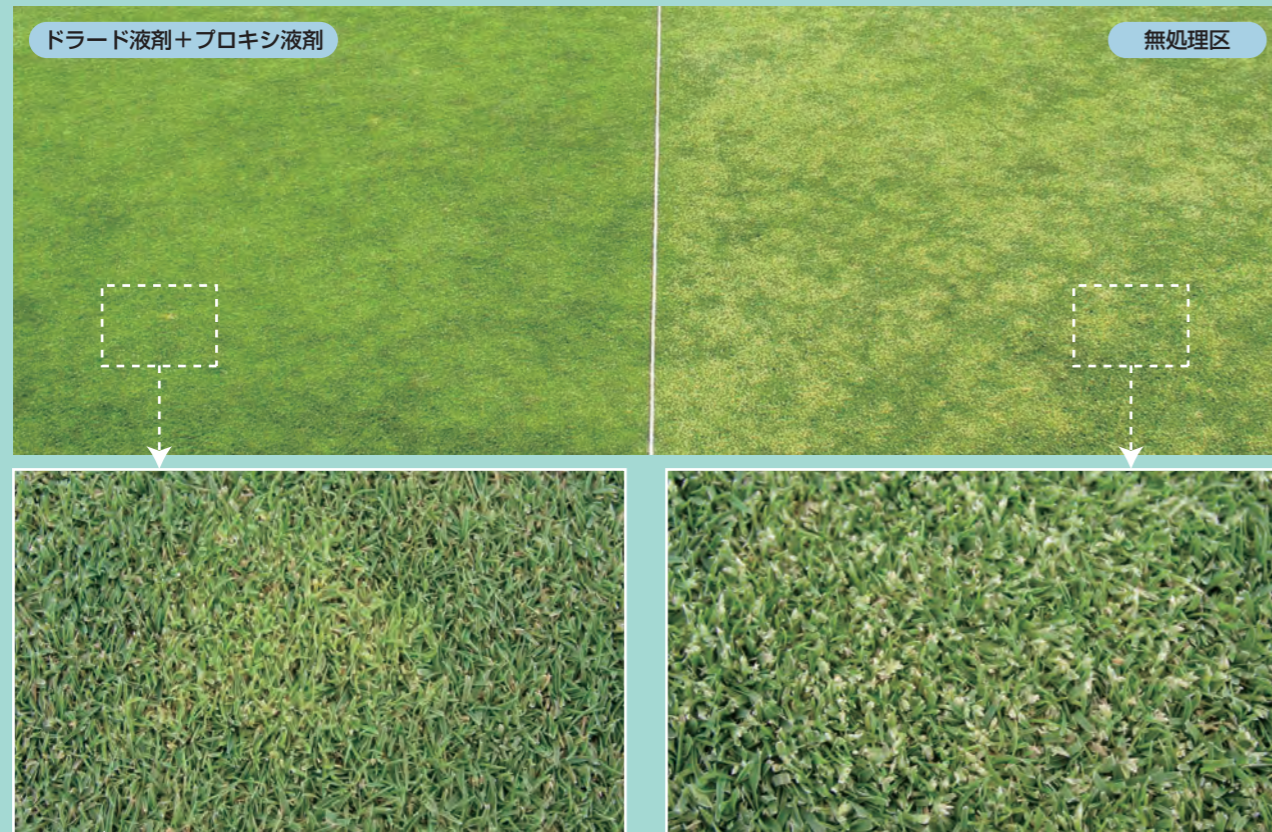
(エテホン21.5%液剤)

相乗効果が認められます。

閃きが生んだ— 奇跡の黄金比！

アメリカ 特許「特許番号 8,293,682 号」 韓国 特許「特許番号 第 10-1612855 号」

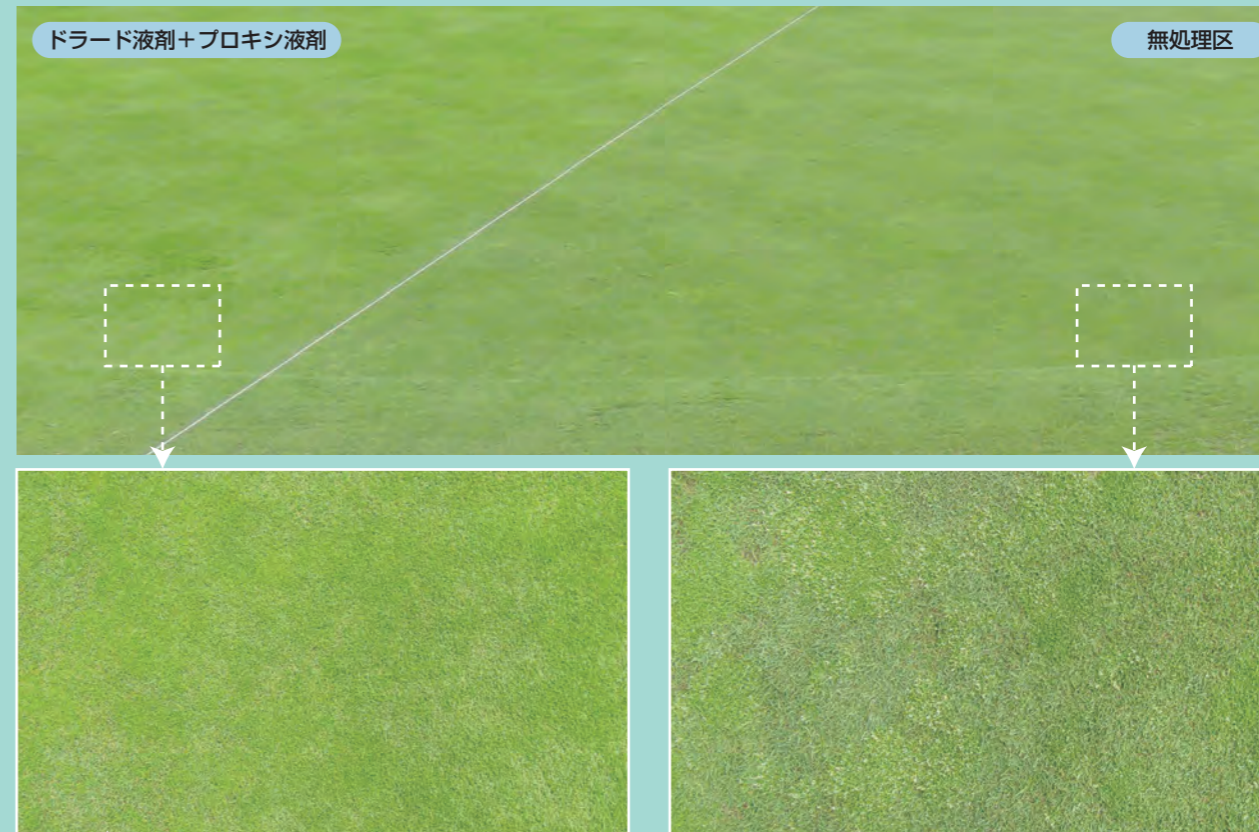
三重県Bゴルフ場



薬剤処理日：2012年3月8日
撮影日：2012年4月9日（処理32日後）
試験場所：本グリーン

散布薬剤：ドラード液剤 0.5 ml/m²+プロキシ液剤 1.0 ml/m²

岩手県Aゴルフ場

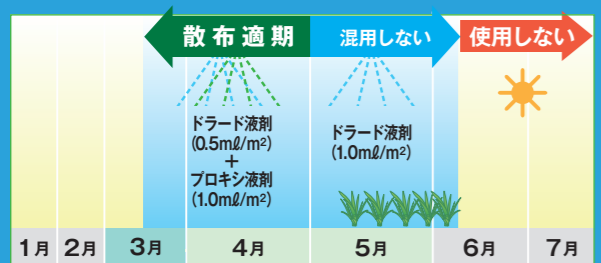


薬剤処理日：2012年4月18日
撮影日：2012年5月8日（処理20日後）
試験場所：練習グリーン

散布薬剤：ドラード液剤 0.5 ml/m²+プロキシ液剤 1.0 ml/m²

非積雪地域 散布時期の目安

スズメノカタビラの発生状況や気候等で散布時期は異なります。



⚠ 5月以降の混用は厳禁

上手な使用方法と注意

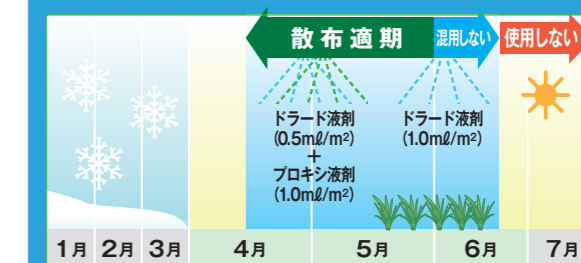
- スズメノカタビラ出穂前～出穂初期が有効なので、散布時期を失わないように注意して下さい。
- 効果が切れる前に連続散布を実施して下さい。(3～4週間隔)
- 気温25℃以上の高温時や強い踏圧を受けるなど、芝生が過度なストレスを受けた条件では使用を避けて下さい。(散布後に芝

が黄変することがありますが、一過性のものでその後の生育に対して影響はありません。)

- 5月以降または気温 25℃以上の日が続く場合は混用処理を中止し、ドラード液剤の単剤処理に切り替えて下さい。

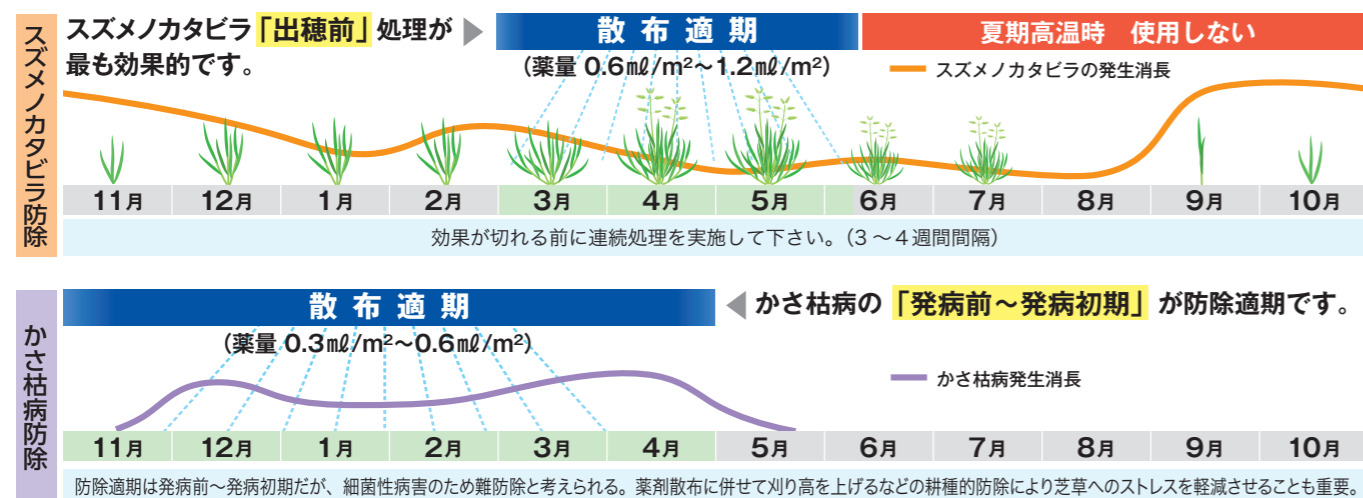
積雪地域 散布時期の目安

スズメノカタビラの発生状況や気候等で散布時期は異なります。

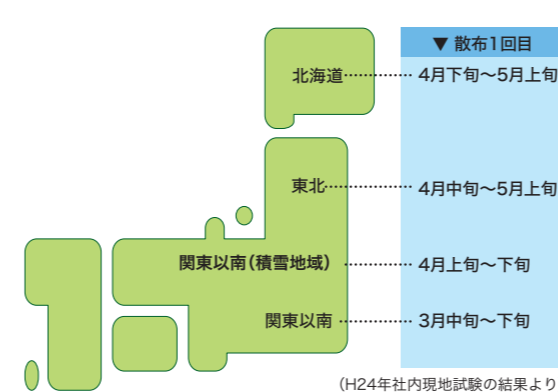


⚠ 6月以降の混用は厳禁

上手な使用方法



各地域の散布時期の目安



Point 初回散布はスズメノカタビラ出穂前～初期が効果的
初回散布以降は3～4週間間隔で連続処理を実施

混用処理での効果

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験より

試験地	処理日	供試薬量	処理回数	調査日	出穂抑制効果(%)
千葉県	H22.3.23	ドラード液剤 0.45ml + プロキシ液剤 1.0ml	3回	H22.5.31	100
	H22.4.13				
	H22.5.10				
静岡県	H22.3.29	ドラード液剤 0.45ml + プロキシ液剤 1.0ml	3回	H22.6.21	100
	H22.4.21				
	H22.5.18				
千葉県	H23.3.11	ドラード液剤 0.45ml + プロキシ液剤 1.0ml	3回	H23.5.24	100
	H23.4.8				
	H23.5.6				
静岡県	H23.3.17	ドラード液剤 0.45ml + プロキシ液剤 1.0ml	3回	H23.6.14	100
	H23.4.11				
	H23.5.9				
山口県	H23.3.14	ドラード液剤 0.45ml + プロキシ液剤 1.0ml	3回	H23.5.13	96
	H23.4.4				
	H23.4.25				